

戸倉新樹先生ご退官誠におめでとうございます

山梨大学長 島田 眞路

戸倉先生のご専門は皮膚のリンフォーマ、皮膚免疫学なので若いころから優秀な若手として意識していました。先生との深いお付き合いは、やはり J S I D に始まります。私が J S I D 理事長になったのは 2005 年ですが、当時、戸倉先生は産業医科大学教授に就任されたばかりでした。先生は教授になるため少なからぬ苦勞をされていましたが、やっと決まり、大変喜んだのを思い出します（私も少なからずお手伝いしました）。2008 年の I I D は私が会長に決まっていたので、事務局長選任が難しかったのですが、戸倉先生にお願いすることになりました。I I D 2008（京都）は、今まで数ある学会のなかでも最も素晴らしい学会だったと自分では評価していますが、その成功も戸倉先生のご活躍なしではありえなかったと思っています。I I D 2008 で日本が名実ともにヨーロッパに追いつき、追い越したものと考えます。プレナリー演題 34 のうち日本はケルン（1998）で 2 つ、マイアミ（2003）で 4 つしかありませんでしたが、京都（2008）では 11 と大幅に増加しました。ヨーロッパは全部で 5 つでした。（ちなみに山梨からは最高の 2 つ）戸倉先生はその功績が認められて、2008 年 J S I D 理事長に就任されました。私の頃からの懸案であった全演題英語化や若手研究者育成のための、きらさぎ塾開講を成し遂げられました。J S I D が真に国際化できたのも戸倉先生のご功績だと思います。

また、J D S では Editor in Chief を務められました。I F 3.7 にまで上げられました。先生はその直前 J D の Editor in Chief も私が 11 年務めた後、短期間務められました。今では J C A C I の Editor in Chief です。英文誌の Chief Editor を 3 つもされたのは、先生だけでしょう。私が日皮会の理事長を務めた際、先生には学術委員長に就任して頂きました。大変な job でしたが見事に務められました。本当にありがとうございました。

先生の研究上のご業績は素晴らしいものがあり、蚊刺過敏症（戸倉病）、A D の分類（intrinsic AD, extrinsic AD）、皮膚型 A T L の再評価（Blood）など枚挙にいとまがありません。普通はこれだけ研究に入れ込むと、他の事はお留守になるのが普通ですが、戸倉先生は ESDR など海外の学会などで自らフルートを演奏されます。また、国内の学会でもデルマオーケストラをオーガナイズされています。その多才ぶりにはいつも心の底から敬意を表しています。深甚なる感謝とともにご退官のご挨拶とさせていただきます。



